

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072500125		
法人名	有限会社グループホーム宮口		
事業所名	グループホーム宮口		
所在地	群馬県安中市松井田町二軒在家1580番地4		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居しています皆様が心から安心・安全に過ごせる施設になれるよう日々努力をしています。個々の方がその人らしく尊厳を持ち生きてゆけるよう職員一同サポートしています。楽しく笑顔でいただければ幸いです。そのため明るくて風通しの良い職場作りに重点をおいてまして、様々な問題から処遇全般を職員会議にて職員全員で考えより良いケアが行えるよう努めています。過去5年退職する職員がいないことが施設の誇りとなっています。入居者様も開所時からの方が半数以上で、長い時間をともに共有できていることで信頼関係や必要なケアポイントがよく図れていると思います。実際施設に來られるお客様から明るくてアットホームな施設と喜ばれております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づき、温かく・おもいやりのあるケアのもとで、明るく・楽しく地域の皆さんとともに安心した生活が送れるよう全職員が参加する職員会議で支援内容や事業所運営のあり方あるいは年間行事計画等について協議し支援している。地域の人々の集りの場所である公会堂の鍵の管理を事業所が任せ、事業所に隣接しているゲートボール場(事業所設置者の所有)や職員駐車場を地域の人たちに開放し、ゲートボール場利用者が事業所で休憩したり、職員駐車場の樹木の剪定や除草をして頂いている。また、歌や踊りのボランティアが事業所を訪問する際は地域の人たちを招待するなど地域住民の一員として地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の理念のもと職員一同介護全般において実践しています。	「私たち職員は、高齢者や認知症を理解し、その特徴を踏まえた温かいケアを行い、安心して家庭の日常生活と同じように生活して頂けるように「おもいやり」を持って明るく楽しくを目標として、地域の皆さんと共に福祉の増進を図って行きたいと考えています。」の理念を掲げている。現在、簡潔で分りやすく実践しやすい理念の見直しを職員会議で行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の他、公会堂の鍵の管理や隣接ゲートボール場の管理を行って地域と結びついています。	町内会に加入し、公会堂の鍵を管理している。また、設置者が所有の事業所に隣接するゲートボール場や職員駐車場を地域の人たちに開放し、ゲートボール場利用者が事業所で休憩したり、職員駐車場の樹木剪定や除草をして頂いている。また、近隣の人たちから季節の野菜や花を頂き、演芸等の慰問時には地域の人々を招待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年数を重ねる事で施設の認知度も上がり、個々の認知症等の相談もいただけるようになってきました。その都度適切に対応しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を実施し必要な各種報告や連絡を行い施設に対して理解を得られるよう努めています。	運営推進会議は今年6月に開催し、次回は9月に敬老会と併せ開催する予定である。会議は、区長や民生委員、全家族に案内し、事業状況や自己評価及び外部評価等を報告しているが、議事録は作成していない。	運営推進会議を2ヶ月に1回以上開催し、議事録を作成されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心に、必要な連携が取れています。	防災の立ち入り検査や調査等に協力している。また、更新手続きや運営推進会議の日程調整のため市窓口に訪問している。市が主催する月1回の会議が事業所の重度の方の入浴日(火曜)であり、以前参加を試みたことがあるが支障をきたしたことがあり、現在はやむを得ず人員体制から出席していない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り拘束のないケアを心がけていますが、認知症周辺症状により危険が大きくみられる場合は家族了承のもと安全ベルトやベッドの2本柵をさせてもらっています。	基本的に、身体拘束は行わないのが前提である。安全ベルトやベッド柵を使用しない支援方法を職員と話し合い種々工夫したが、使用する以外に安全な方策が見つからず、使用する場合は家族の承認を頂いている。	身体拘束を行わないためにも入居者の症状の要因を取り除くケアを今後も引き続き検討し、家族等との話し合いの上で抑圧感のない暮らしの支援をされることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない施設として運営をし続けています。利用者の安全・安心の提供がしっかり図れるよう理念を掲げ行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時を中心に制度の理解をしてもらえるよう学習する機会を設けています。		
9	○	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は不安や疑問がないように丁寧に執り行うよう心がけています。		
10	(6) ○	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のなかで家族等の意見がありますので、それを速やかに運営にいかせるよう心がけています。	玄関に意見箱を設置し、面会時に家族の要望等を聞いている。家族が関心をもっている防災についての質問に区長を中心に緊急時の対応方を話し合っている旨を回答したり、食事や健康・生活状況・認知症状については写真を渡し説明するなどの工夫をしている。	
11	(7) ○	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を必ず開催しています。そこで全職員対象に意見を聞き、反映がされるようしています。	全職員が出席する職員会議や申し送りの他、管理者と職員との食事会を開き意見交換を行い、介護方法・行事あるいは災害時の夜間や早朝における外部からの開錠方法等を話し合っている。	
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境となるよう就業環境の整備を行っています。		
13	○	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会や勉強会の他、随時職員の質問等受け対応しています。		
14	○	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の各種研修とともに、当施設が南部ブロックの安中地区地域リーダーをしていますので交流と各種調整をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時におけるニーズの把握と全体像の把握に努め、早期にラポールの形成ができるようしています。		
16	○	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前のニーズ確認と利用開始からの新たなニーズが拾えるようしています。面会時や電話などで要望を聞き、安心して施設生活が提供できるようしています。		
17	○	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早期アセスメントに努め必要なサービスがされるようしています。		
18	○	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームですのでより生活を意識した職員と利用者が協働しながら年月を重ねられる場所となれるようしています。		
19	○	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居してからも本人と家族の関係性が図れて絆が継続されるよう支援しています。		
20	(8) ○	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々ですが入居者の自宅や生家の近辺をドライブの際に訪ねたりしています。	ドライブの際に自宅や生家を訪れ、雑草が気になる人は留守宅に立ち寄り近所の人と世間話をすることもある。また、墓参りに職員が送迎したり、誕生日等に家族と共に外出する人もいる。	
21	○	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに特に精神的に支えあえるようよい関係性が図れるようにサポートしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所があっても必要な関係性の維持に努め支援できるようしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	○	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランは本人の意思に沿うようにプランニングします。意思表示困難な方は全体像を把握し本人本意のプランができるよう努めています。	日々の生活の中で、入居者の希望を聞いている。意思表示の困難な人には、面会時に家族の希望を聞き、問いかけて反応を見たり、日々の行動の中から本人の笑顔で判断するなど、本人本位の支援を行っている。	
24	○	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話場面で過去の生活様式が見えてきますので活かしつつ職員間で共有し、その人の理解に努めています。		
25	○	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の日常の生活リズムが把握できるよう努めています。ほとんどの方が開所年時からの方なので把握はしやすいと思います。		
26	○	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは家族・本人のニーズと合わせて、職員との処遇会議をベースに作成しています。モニタリングも同様です。	毎月開催するケアカンファレンスで支援方法等を話し合い、共通認識の下で支援している。モニタリングは6ヶ月のケアカンファレンスの発言を記録し、モニタリングとしては記録していない。介護計画の見直しは、6ヶ月毎に行うこととしている。	
27	○	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各々の毎日の記録を継続的に行い介護計画に活かしています。		
28	○	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	松井田病院との連携や訪問看護の利用、ボランティアの活用と多機能的な支援が行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域柄活用できる資源が少なく難しいと思われまます。		
30	(11) ○	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回往診があり検査等を含め入居者の健康が図れるようしています。	契約時に協力医の往診状況を家族に説明し、ほとんどの方が月1回協力医の往診を受けている。歯科等の専門医や緊急時の受診は職員が対応し、受診結果は電話報告している。	
31	○	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態により訪問看護を活用し看護婦と連携して各病状の安定や健康が保たれるようしています。		
32	○	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はこまめに連携をとり速やかな退院がとれるよう働きかけています。		
33	(12) ○	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の協力・連携のもと家族とよく話し合い重度・ターミナルケアを行っています。ただ看取りは行っていません。	看取りは行ってないが、重度化した入居者は家族や主治医と話し合い支援している。	
34	○	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要な知識と備えをもって緊急時は対応しています。全職員が長期勤務者なので一度は事故や急変の経験をつんでいます。また手順もマニュアルにて示しています。		
35	(13) ○	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	区長さんを中心に地域との連携の話ができています。また避難訓練や必要な整備を行っています。	年2回の避難訓練のうち1回は、消防署の指導のもとに夜間を想定した総合訓練を行っている。避難場所が指定され、廊下に避難経路を掲示している。近隣との協力関係は区長を中心に築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を尊重してプライバシーを保てるようケアに努めています。	失禁時は他の人に気づかれないよう声かけをし、オムツ替えは部屋で行っている。また、入浴時の着替えは同性同士でも別々に行っている。耳の遠い人には耳元で話したり、呼称は入居時姓で呼び信頼関係が築かれた時は名前で呼ぶなど一人ひとりの尊厳とプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしくあれるようにケアにあたっています。自己決定、自己選択を重視したケアに取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々よく会話し今日なにがしたいか聞きニーズに沿った生活が送れるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望にあわせて可能な限り支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの食事機能にあわせて楽しく食事をさせていただけるよう支援しています。できる方には準備等も手伝っていただいています。	副食は配食業者の食材を使用しているが、ご飯と味噌汁は入居者と共に職員が調理し、時には入居者の希望を取り入れご飯を麺類に変えて提供している。入居者が一番楽しみとしている食事時間を全職員が共に食事し過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養と水分が取れるよう個々に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態にあわせての口腔ケアを毎日継続的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄が維持出来るよう支援をしています。またオムツの方は不快感が少なくすむようこまめにオムツ交換するようしています。	できるだけトイレでの排泄ができるよう個々の立ち上がるようなしぐさやそわそわするような様子を察知し、トイレへの誘導をしている。個々の状態にあわせておむつ・パット等の使用を検討し、できるだけ不快感なく過ごせるよう誘導しても排尿のない時には再度時間をおいて誘導する等している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のチェックをして定期的な排便があるように服薬等使用しながら対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は固定させてもらっていますが、個々に理解ならば了解していただき入浴していただいています。	週2回の入浴とし、入浴を拒否する人には時間を置き気分転換を図ったり、あるいは曜日を変えて誘導している。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じ、時には入浴中に草津節を歌うなど入浴を楽しむ工夫をしている。また、冬場は肌の乾燥を防ぐ入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温や体位交換等、安楽に睡眠や休息が取れるよう環境配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬等ないように個々の薬を表にして配膳前に必ず複数名でチェック機能が働くようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしくをモットーに役割意識を持ち尊厳ある生活が送れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿い家の様子や近所に出かけ交流・繋がりが維持出来るよう努めています。	季節の良い時は、ほぼ毎日散歩を行ったり、週1～2回ドライブをしたり、屋外でお茶会を開いたり、時には友人と外出するなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族希望により現在全利用者様、自身でお金を所持している方はおりません。		
51	○	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時における手紙や電話を支援しています。		
52	(19) ○	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感と清潔感あるスペースとなっていると思います。	玄関にはススキと季節の花が活けられ、食堂のテーブルにも庭や畑で採取した花や近所の人から頂いた花が活けられている。廊下には模造紙大の月見の貼り絵が飾られ、居間にはテレビを囲みソファが配置され食後にテレビを楽しみ休憩できるようになっている。	
53	○	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂等個別スペースが作りやすいと思われる。テーブル・ソファが活用されています。		
54	(20) ○	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力馴染みのものや家族の写真等でその人らしい部屋があり、快適に過ごしていただけるよう努めています。	算数計算表が壁に掛けられたり、5世代の写真や入居者が制作したぬり絵・貼り絵が飾られている。また、手作りの木掘りのダンスや小物入れが持ち込まれ、豪華で暖かな雰囲気醸し出している。	
55	○	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存機能が活かされるよう内部はなっており、リハビリや生活動作が執り行えるようしています。		